

ヤマハ発動機グループ環境計画2050

ヤマハ発動機株式会社は2018年12月、「ヤマハ発動機グループ環境計画2050」を発表しました。この計画は、製品使用時のCO₂排出量、生産や物流におけるCO₂排出量、資源利用のそれぞれについて2050年までに2010年比で50%削減を目指し、同時にグローバル視点で環境保全と生物多様性に取り組むものです。

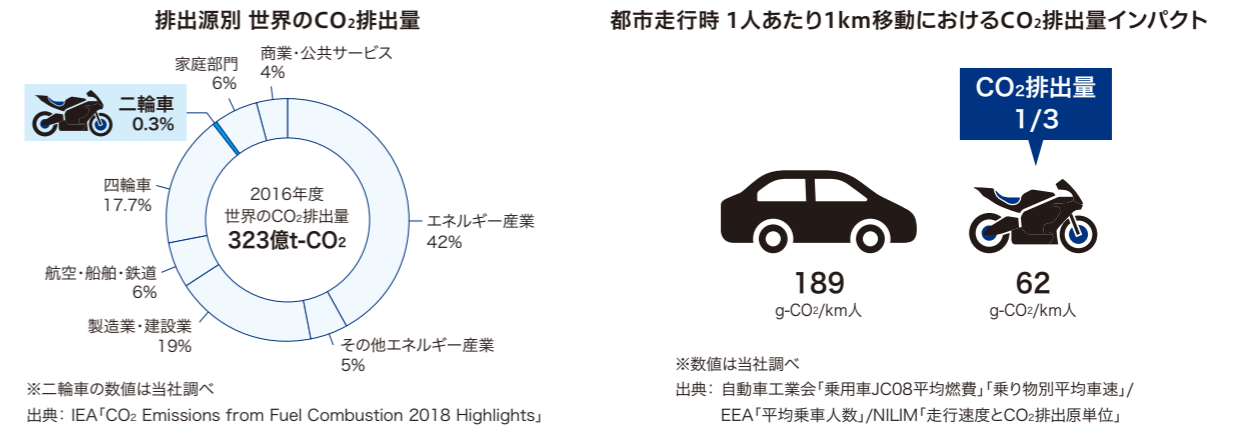
取り組み分野	2050年目標	重点取り組み項目
(製品) 地球にやさしいパーソナルモビリティを提供する 製品からのCO ₂ 排出量を2050年に50%削減する(2010年度比)		
低炭素社会 	1 製品から排出されるCO ₂ を削減 (t-CO ₂ /販売台数)	燃費性能向上の開発を推進
	2 次世代モビリティの開発推進と普及推進	エネルギーの多様化に対応する製品開発と普及を推進
	(事業活動) ライフサイクル全体からのCO ₂ 排出量を50%削減する(2010年度比)	
	3 生産活動で排出されるCO ₂ を削減 (t-CO ₂ /売上高)	グローバル工場売上あたりのCO ₂ 削減
	4 物流活動で排出されるCO ₂ を低減	輸送単位あたりのCO ₂ 削減
(資源) 資源利用を50%削減する(2010年度比)		
循環型社会 	5 再生可能な資源活用による新規資源利用の削減	限りある資源の省資源化(3R開発/製造)を推進
	6 生産活動における廃棄物の低減	廃棄物の削減を推進
	7 生産活動における水使用量の低減	水ストレスシナリオに基づき水使用量低減活動を推進
	8 物流活動における梱包資材の低減	梱包機材のリターナブル化を拡大
自然共生社会 各国・各地域で環境保全・生物多様性の活動を強化する		
自然共生社会 	9 製品を使用するフィールド(陸・海・空)を守る活動	各国・各地域で自然保全の活動を推進
	10 陸上/海洋の生態系保護の取り組み	生物多様性の取り組み姿勢に沿った活動を推進
	11 各国・各地域の環境課題解決に貢献する活動	社員一人ひとりが持続可能な地球に貢献する活動を実施する
マネジメント		
マネジメント 	12 環境法令遵守と製品化学物質管理の強化	各国・各地域の事業活動に伴う環境コンプライアンス遵守の徹底
	13 各国・各地域の大気汚染改善への貢献	各国・各地域の排ガス規制に適合したモビリティの導入
	14 生産活動におけるVOC排出の低減	塗装面積あたりのVOC削減を推進
	15 サプライヤーと連携した環境活動の推進	環境サーベイを通じたサプライヤーとのエンゲージメントの推進と負荷低減の促進
	16 グローバルで環境教育による環境保全意識の啓発	各国・各地域の環境課題に沿った環境教育の実施

持続可能な社会の実現に貢献する当社製品

CO₂排出量が極めて少ないモビリティ

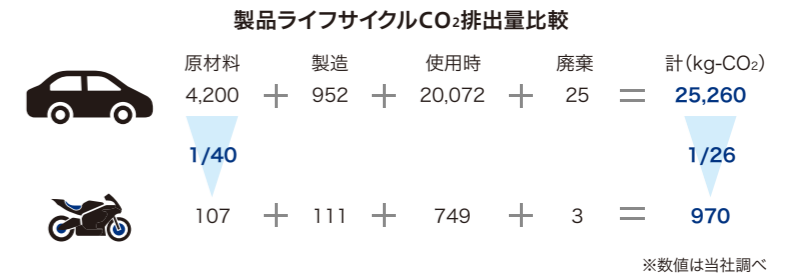
2016年の世界のCO₂排出量は323億トンです。このうち二輪車は、排出源として占める割合が全体の0.3%で、極めて環境負荷が少ない乗り物です。

さらに二輪車は、都市移動の交通手段としては最速で燃費も良く、乗用車と比べて1人あたり1km移動におけるCO₂排出量のインパクトは1/3です。



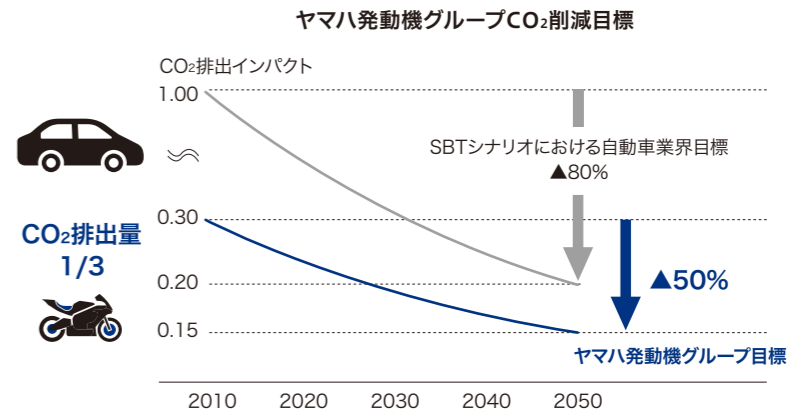
ライフサイクルでも環境負荷極小

二輪車は、資源採掘から廃棄までのライフサイクルCO₂排出量が乗用車の1/26、資源利用量においては1/40と、地球にやさしい持続可能なモビリティです。



目標設定の考え方

「ヤマハ発動機グループ環境計画2050」では、「2°Cシナリオ」のCO₂削減目標に積極的に貢献する企業としてSBTi(科学と整合した目標設定)の考え方に基づいて目標を策定しました。策定にあたっては、パーソナルモビリティの特長を生かし、自動車セクターで要求されている到達目標を上回る削減シナリオとしています。



企業と地域社会との共存共栄

ヤマハ発動機グループの活動拠点は世界各地に所在し、地域社会の人々に支えられて事業活動を行っています。また、私たちの製品が世界各地の人々に利用され、より豊かな生活に役立つよう願っています。私たちは企業と地域社会との共存共栄を図り、持続可能な関係が重要であるとの認識に立ち、そのためには地域のステークホルダーの皆さまと日常的なコミュニケーションを通じて信頼関係を維持・向上することが大切であると考えています。

重点領域

取り組みテーマ	グローバル課題			ローカル課題
	将来を担う人たちの育成	地球環境の保全	交通安全普及	地域社会の課題解決
活動内容	・スポーツを通じた心身の育成 ・モノ創りを通じた創造性の育成、など	・地域社会への環境教育 ・生物多様性の尊重、など	・社会への交通安全教育 ・啓発活動、など	・当社製品や人材、ノウハウを使った地域支援、など

将来を担う人たちの育成

ヤマハと共同で子ども「モノづくり講座」を開催

同じブランドを使用する楽器のヤマハとヤマハ発動機は、「ふたつのヤマハ。ひとつの思い。」のテーマを実現するイベントとして子ども向け「モノづくり講座」を共同で開催しました。

楽器の製造工程で出る端材・廃材を使ってアフリカ民族楽器を作り、音の出る仕組みを学ぶヤマハの「♪親指ピアノ『カリンバ』



を作ろう」と、釘が磁石になる電磁石の実験やモーターコア部にニクロム線を巻いてモーターを作り模型自動車に取り付けて電気自動車を走らせる当社の「モーター工作教室」をヤマハコミュニケーションプラザで開催しました。

地球環境の保全

青い海のためのビーチクリーン活動

ヤマハモーターベトナムでは、青い海のためのビーチクリーン活動を2015年から場所を変えながら継続して

4年間累計で2,500人の参加となりました。このイベントは役員、従業員とその家族が夏休みを利用して早朝からビーチを歩きながらビンやプラスチック、ビニール袋などを集めるもので、地球環境保全活動の重要性を地域住民や観光客に気付いてもらう効果もあり、社会活動を通して環境や地域社会へ貢献し感動を与え続けています。

交通安全普及

専門学校をパートナーにして若年層交通死亡事故削減へ

ヤマハ発動機グループでは、世界各地で二輪車の交通事故減少を目的とするさまざまな安全運転プログラムを実施しています。

タイ・ヤマハ・モーターでは、2018年にタイ国内6カ所の専門学校と安全教育に関する包括契約を締結し、若年層の交通死亡事故削減に向けた活動を開始しました。今後は11カ所まで提携拡大の予定で進めています。



地域社会の課題解決

インドネシア ロンボク島地震支援

2018年8月、インドネシアのロンボク島でマグニチュード7を超える大きな地震が発生し、その後も何度も大きな地震が起き、同国の国家防災庁は死者が515人に達したと発表しました。また、負傷者は7千人を超え、43万人超が避難生活を余儀なくされました。

ヤマハモーターインドネシアは、ロンボク島を担当するディーラーSurya Timur Sakti Jatim 社(スラバヤ市)と共に、被災地での救済・復旧に尽力するインドネシア軍に対して発電機を寄贈しました。ロンボク島では停電が続き、道路にはがれきが山積みになっていましたが、寄贈された発電機「ET-1」は道なき道を進み、照明やバッテリー充電など、さまざまな用途で活躍しました。

スポーツで挑戦の尊さを社会に発信

ヤマハ発動機は創立以来、チャレンジスピリットを原動力に未来を切り開いてきました。その「挑戦するところ」は企業風土としてしみわたり、グループ社員1人1人の基本的精神として深く刻み込まれています。

私たちは、挑戦する姿を分かりやすい形で伝えることのできるスポーツ推進活動を通じて、夢を持つことの素晴らしさや挑戦の尊さを社会に発信していきたいと考えています。

レース活動

厳格なルールのもとでライバルと同条件で競い合うレース活動は、自分たちのレベル把握や先行技術開発の場だけではなく、チャレンジの象徴として世界中の人々に感動を与え続けています。



ジャパンラグビートップリーグ

ヤマハ発動機ラグビー部「ヤマハ発動機ジュビロ」は、日本国内最高峰社会人ラグビーリーグ「ジャパンラグビートップリーグ」に参画し、常にハイレベルな戦いを展開しています。



公益財団法人ヤマハ発動機スポーツ振興財団

ヤマハ発動機創立50周年事業の1つとして設立した同財団は、スポーツ分野で夢の実現にチャレンジする人を応援することを理念に活動を行っています。



ヤマハセーリングチーム

「YAMAHA Sailing Team'Revs'(ヤマハセーリングチーム'レヴズ)」は、セーリングワールドカップや世界選手権大会をはじめとする国内外の主要大会での上位入賞を目指して活動を行っています。

